

東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第2学年 国語科学習指導案	授業者	加儀 修哉
	授業学級	2年C組(男子16名, 女子19名)
授業テーマ	「〇〇の原因を探る」～筆者の述べ方で伝える、ミニフィールドワーク～	

1. 本時の目標

- 身近なことがらについて、筆者の述べ方を用いて発表し合うことを通じて、事実をわかりやすく伝える表現の工夫について知る。
- 調査研究をわかりやすく伝える上での、表現の仕方（段落構成・語彙）について考える。

2. 本時の位置づけ

第2学年国語科では、「語彙を豊かにすること」を中心に授業づくりを行っている。文学作品を語るためには、例えば「人物の関係性」という言葉が作品世界を深く知る手がかりとなる。短歌で言えば「余韻」という言葉が、行間を想像することにつながる。このように語彙の獲得が、思考そのものも導くと考える。本単元で身につけさせたい語彙は、研究をわかりやすく伝える言葉である。

説明文「クマゼミ増加の原因を探る」（光村図書）は、大阪市でのクマゼミの増加について、6つの段落から調査・検証の内容を伝えている。

①研究のきっかけ ②[前提] ③[仮説1] ④[仮説2] ⑤[仮説3] ⑥(まとめ) 例えば「①研究のきっかけ」の段落では「大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのだろうか」と問題提起をする上で「…では、なぜ…これほど～たのだろうか」という表現を用いている。「…」 「～」に、別の調査研究の言葉を入れたとしても、問題提起をする語彙として用いることができる。

このように本単元では、事実をわかりやすく伝える語彙に着目させ、それを用いて、筆者と同じように調査したことがらについてグルー

プ毎に発表しあい、研究をわかりやすく伝える語彙について知り、用いてみることをねらいとしている。具体的には、段落の役割や、事実をわかりやすく伝える表現について考察した後、身近なことがらについて、同じ6段落の構成や、筆者の表現の工夫を用いて伝える学習である。

3. 本時の概要（10時間目／10時間扱い）

（1）調査研究をわかりやすく伝える語彙に浸る場として

「バドミントン部が人気の原因を探る」や「朝食でパン食が多い原因を探る」のように、小グループで身近なことがらについて調査し、筆者と同様の段落構成や述べ方を用いて発表する。具体的には仮説を立てた上で、アンケートによる調査（ミニフィールドワーク）を行った。

そしてその発表を互いに聞きあうなかで、繰り返し登場する筆者の語彙に触れ、事実をわかりやすく伝える語彙について考えさせた。

（2）情報活用能力との関連

-1 情報活用能力をどうとらえるか（「必要な情報を整理する力」）

身近なテーマについて問題提起し、仮説を立て、調査・検証して発表する学びの上で重要であるのは、必要な情報を整理する力である。筆者の文脈で発表することも加え、よりこの力を問う。

-2 体系表に照らしてみると

B 思考力、判断力、表現力等（情報の収集・整理・分析・表現する力）

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉前時の学習の振り返り</p> <p>T：前回の身近なものと原因を探る発表のなかで、どのような段落のはたらきや表現の仕方が印象的だったか。</p> <p>S1：特に仮説が具体的に整理されているとわかりやすい。</p> <p>S2：問題提起と「つまり」でおおよその内容がわかる。</p> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	<p>○筆者の段落構成や、述べ方の工夫を用いて、身近なものと原因を発表しあう学習であったことを思い出させる。(今日は発表の後半である；意欲づけ・方向づけ)</p>
<p>〈2. 展開〉</p> <p>(1)「〇〇の原因を探る」発表会の練習をする。(4人1グループ)</p> <p>(前回発表を終えたグループは、自身の発表を振り返り、構成や用いた表現について振り返りグループ内で感想を述べる。)</p> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	<p>○問題提起をはじめ、6段落の構成や、用いた筆者の表現の仕方が正確に伝わるように意識させる。</p> <p>○6段落の構成のなかで、事実をわかりやすく伝える上で、どの段落のどの表現を工夫したのかについて事前に説明させる。</p>
<p>(2) 続「〇〇の原因を探る」発表会</p> <p>T：事実をわかりやすく伝える上で、工夫していた段落のはたらきや、表現の工夫を見つけよう。</p> <p>(6つの段落を4人で分担し発表する)</p> <p>①研究のきっかけ(問題提起はどのように)</p> <p>②[前提](調査の事実をどのように)</p> <p>③[仮説1](どこに注目し、どのように検証したのか)</p> <p>④[仮説2](それぞれの仮説のつながりは?)</p> <p>⑤[仮説3]</p> <p>⑥まとめ(検証から見えたことは?)</p> <p style="text-align: right;">(25分)</p>	<p>○発表を聞いて、事実をわかりやすく伝える上で工夫していた段落のはたらきや、表現の工夫についてメモさせる。</p> <p>○発表を聞いての感想に加え、工夫していた段落のはたらきや表現の工夫について、代表者にコメントさせる。(各班から1人)</p>
<p>〈3. まとめ〉ここまでの学習を振り返り、ノートに書く。</p> <p>S1：「研究のきっかけ」重要なはたらきだと感じた。聞き手に興味がないことがらでも、共通点を挙げ、できるだけ聞き手に寄り添う姿勢が大切である。</p> <p>S2：「着目」という表現や、「つまり」という書き出しが何度も出てきた。筆者の着眼点や、意図を立ち止まり納得する上でも重要である。</p> <p>S3：「まず」「しかし」「その結果」といったように、接続語の順序で構成がほぼ決まる。どのように調査を伝えるのか、論の展開を整理する上でも役立つ。</p> <p style="text-align: right;">(15分)</p>	<p>○事実を分かりやすく伝える上で、重要な段落のはたらきや、表現の仕方についてわかったことを言葉にさせる。(特に実際に調査行って、事実を伝える上で気づいたことや、調査や研究内容を発表する上で役立つ表現についてなど。)</p>

(参考文献)『大村はま国語教室 ことばの指導の実際』(筑摩書房 1984)